

# 腹臥位安静に伴う苦痛と効果的な援助

## Effective Nursing Care for Pain during Prone Position

東5階病棟 奈良井茂一、早川美紀、荒井さくら、島田真理子、根井きぬ子

### 《要旨》

網膜剥離や糖尿病性網膜症の治療でガスタンポナーデ術を行った患者は、術後1～2週間、ときにはそれ以上にわたって腹臥位安静を強いられる。患者の苦痛を理解し、より効果的なケアを探るために2年間研究を行った。H16年の退院時の調査では、術後2～3日目に苦痛が最も強いと答えていたが、H17年に「痛み」に絞ってタイムリーに聞き取りをしてみると、術後一週間に於いて「痛み」の強さに変化はなかった。今回の研究では、年齢・性別・体型との関連で「痛み」の部位が異なる要因について特定できなかった。除痛のためのケアも様々で、顕著に改善できるものはなかった。

### 《キーワード》 腹臥位安静 苦痛 ケア

#### I. はじめに

当院眼科病棟では、網膜剥離や糖尿病性網膜症などの硝子体性疾患の占める割合が多い。これらの治療として行うガスタンポナーデ術（シリコンオイルやSF6ガスなどを注入）は、術後1～2週間、ときにはそれ以上にわたって腹臥位安静を必要とする。腹臥位安静を必要とする患者の数は、年間約140名以上にのぼる。患者は腹臥位安静中に肩こり、腰痛、胸腹部の圧迫感、不眠など様々な苦痛を訴え、看護師はその時々に対処を行ってきたが、その状況を十分把握できていなかった。そこで患者の苦痛を理解し、より効果的なケアの手だてはないか探るために今回の研究に取組んだ。

#### II. 研究方法、倫理的配慮

1. 1) 期間：平成16年7月～11月

2) 対象：眼科病棟に入院し、手術後腹臥位安静を行った患者26名

男性：17名 女性：3名 性別未回答：6名

3) 方法：退院時に自記式アンケート調査を実施。ただし視力・視野障害で判読が困難な患者には了解を得て看護師が聞き取り調査を行った。

＜アンケートの内容＞①腹臥位安静がもっともつらかった時期

②腹臥位による苦痛の内容と程度（5段階評価）

③実施したケアとその効果

2. 1) 期間：平成17年8～10月

2) 対象：A病棟に入院し、手術後腹臥位安静を行った患者59名

男性：27名 女性：32名

方法：手術当日から一週間後まで毎日、日勤の担当看護師が聞き取り調査を行った。

<調査の内容>①後頭部、肩、背部、腰部の「痛み」の程度（5段階評価）

②年齢や性別、体型などの因子が「痛み」に関連しているか

③実施したケアとその効果

3. 倫理的配慮：研究目的と方法について説明し、同意の得られた患者に調査を実施した。また本研究は看護研究倫理委員会の承認を得ている。

### Ⅲ. 研究結果

H16年に実施した、退院前の自記式アンケート調査では①腹臥位安静が最もつらかった時期について57%の人が「術後2～3日目が一番つらい」と答えている。(図1) ②「腹臥位安静で何がつらかったか」という問いには、「肩・首・腰の痛み」と「不眠」が同数で76.9%と最も多かった。(表1) ③実施したケアとその評価では、頭部や胸部の下に敷くクッションの工夫、肩をまわすなどの運動が効果あったと答えている。(図2)

図1 腹臥位安静がもっともつらかった時期

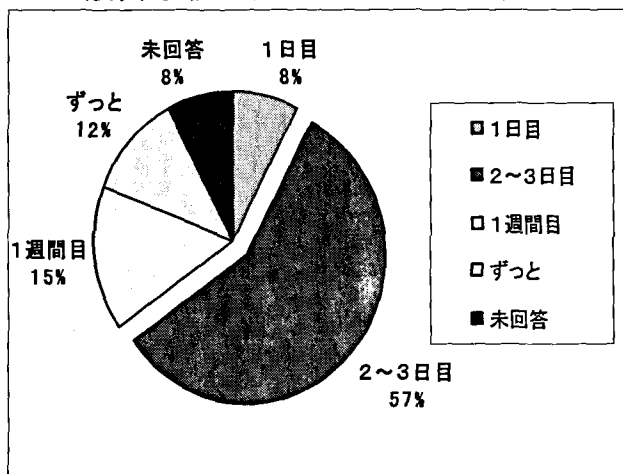
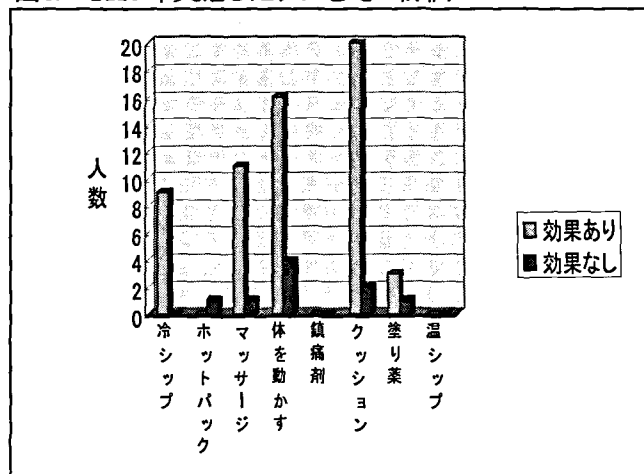


表1 腹臥位安静で何がつらかったか

	人数 (%)
肩・首・腰の痛み	20 (76.9%)
不眠	20 (76.9%)
腹部や胸部の圧迫感	14 (53.8%)
テレビ観賞や読書ができない	14 (53.8%)
窒息感	13 (50%)
暑さ	10 (38.5%)
膝の痛み	9 (34.6%)
他者と顔を合わせて話せない	6 (23.1%)
床やベッドの臭い	6 (23.1%)
頭痛・頭重感	5 (19%)
手指の痺れ	4 (15.4%)
食欲低下	1 (3.8%)

図2 H16年実施したケアとその評価



H17年では①調査の内容を一番つらかった『痛み』にしぼり、その部位を「後頭部」「肩」「背部」「腰部」に分けた。どの部位も術後2日目から7日目まで「痛み」は持続し、強さに差はなかった。(図3) ②年齢別では30・40代では肩の痛みが強く、50・60代では腰痛が強かった。70代以上では他の年代と比較して全体的に「痛み」が弱かった。(図4) 男女別の比較では全体的に女性の方が男性より「痛み」が大きかったが、腰痛は男性が強かった。(図5) 体型と「痛み」の強さの関連では、BMI25以上の肥満の人は肩の痛みを強く訴えたが、それ以外の部位では大きな差はなかった。(図6) ③ケアの効果はH16年の調査と差はなかった。(図7)

図3 痛みの部位と強さ

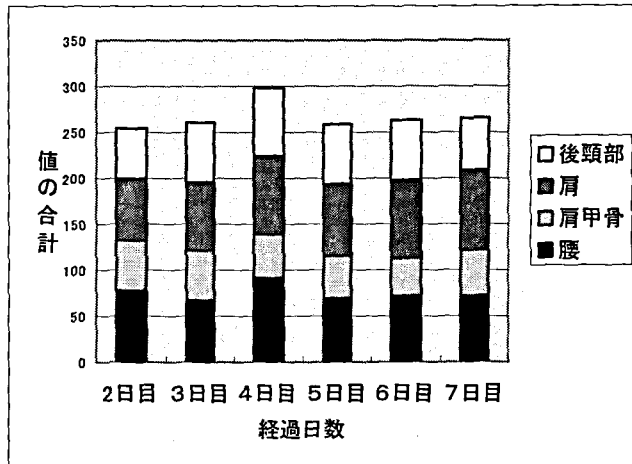


図4 痛み：年齢別の比較

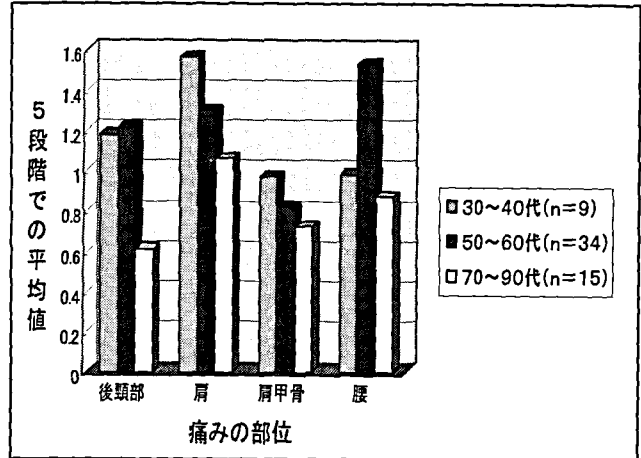


図5 痛み：男女の比較

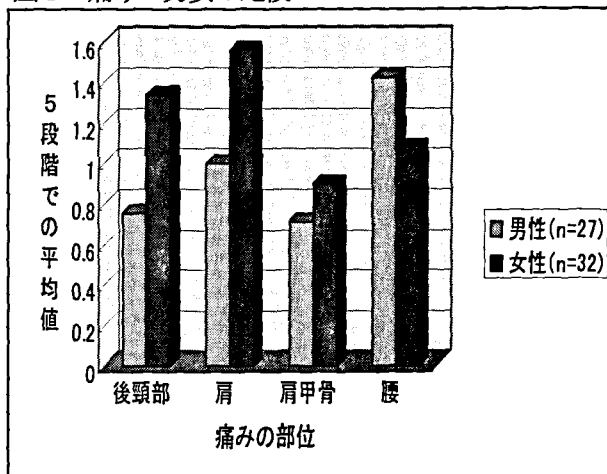


図6 痛み：体型の比較

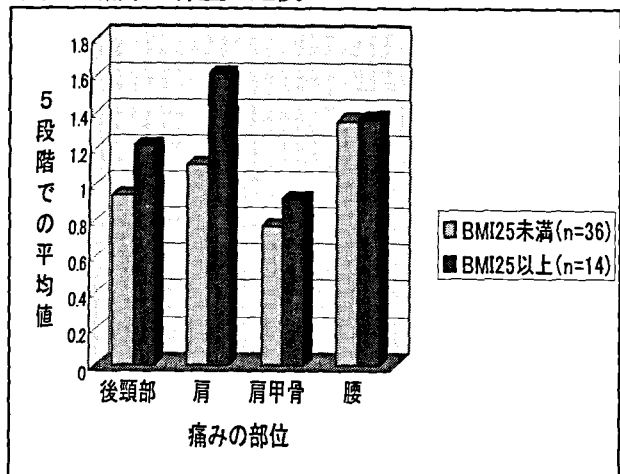
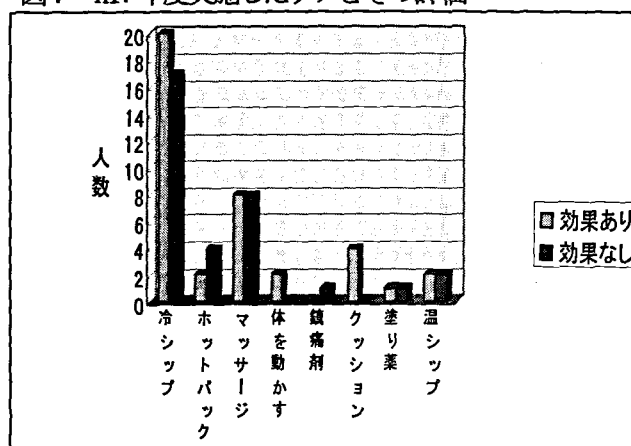


図7 H17年度実施したケアとその評価



#### IV. 考察

H16年の退院時の調査では、術後2～3日目に苦痛が最も強いと答えていた。これは他施設の結果と同様であった。しかし、H17年に「痛み」に絞って、タイムリーに聞き取りをしてみると、術後一週間において「痛み」の強さに変化はなかった。これは、これまでの我々の認識をくつがえす結果であった。年齢・性別・体型との関連で「痛み」の部位が異なる要因について、現時点では特定できていない。また、除痛のために使用している冷湿布やマッサージ等、ケアの効果も様々で、顕著に改善できるものはなかった。今後それぞれの部位別に効果的な方法があるか検討が必要である。

#### V. 結論

1. 腹臥位安静時の苦痛は、術後2～3日目に最も強い
2. 腹臥位安静時の「痛み」は術後一週間持続する。
3. 除痛のためのケアの効果は様々で、顕著に改善できる方法はなかった。

#### VI. 参考文献

- 1) 藤巻尚美他, 眼科手術後患者の体位制限に伴う苦痛と効果的な援助, *Yamanashi Nursing Journal* Vol.2 No.1, 2003